

## ディリー・ジーザス・ニュース #302

### 金曜日…苦悩と贖罪の日

#### ゲッセマネの園でのイエスの逮捕

ユダが兵士と指導者たちをイエスのもとへ導く

ヨハネ 18.2-9 (並行聖書：マタイ 27.47、マルコ 14.43、ルカ 22.47)

---

2イエスが話しておられると、十二人の一人であるユダがやって来た。イエスを裏切ったユダは、その場所を知っていた。イエスが弟子たちとそこで何度も会っていたからである。3そこでユダは園にやって来て、大きな<sup>J</sup>兵士の分遣隊と、祭司長、パリサイ人、<sup>MT</sup>民の長老たちからの役人たち。<sup>J</sup>彼らはたいまつ、ランタン、そして武器(剣や棍棒)を携行していました。

4<sup>J</sup>イエスは、自分に起ころうとしていることをすべてご存じだったので、出て行って彼らに尋ねました。」**「だれを捜しているのか。」**

5彼らは答えた。」ナザレのイエスです。」

」**わたしである。**」イエスは言われた。裏切り者のユダも彼らと一緒に立っていた。6イエスが」**わたしである。**」と言われると、彼らは後ずさりして地面に倒れた。

7イエスは再び彼らに、」**だれを捜しているのか**」と尋ねられた。彼らは」ナザレのイエスです」と言った。

8イエスは答えられた。」**わたしはあると言った。あなたがたはわたしを捜しているのだから、この人たちを解放するように命じる。**」

9これは、イエスが言われた言葉が成就するためでした。」**あなたが私に与えてくださった者を、私は一人も失いませんでした。**」(ヨハネ17:12)

---

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = <sup>MT</sup>、マーク = <sup>M</sup>、ルカ = <sup>L</sup>、ヨハネ = <sup>J</sup>、使徒行伝 = <sup>A</sup>。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します。** 旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

# THE DAILY JESUS NEWS

An ATJ Ministries Publication by John Wright

## コンテキストダイジェスト

位置	オリーブ山のゲッセマネの園
タイムライン	4月上旬 ( 39ヶ月目 )
イエスの生涯の文脈	第8段階：受難週
	E. 金曜日：苦悩と贖罪の日
	ゲッセマネの園でのイエスの逮捕
タイトル	ユダが兵士と指導者たちをイエスのもとへ導く

イエスの地上での生涯で最も偉大な日、受難週の金曜日は、早朝、真夜中頃、ゲッセマネの園での逮捕とともに始まりました。DJNの3つの朗読では、この胸が張り裂けるような場面を描いた四福音書を取り上げます。それはほんの始まりに過ぎませんでした。午後半ばには、イエスが私たちのために耐え忍んだ恐怖は、ついに死へと至りました。イエスの生涯の他のすべてと同様に、イエスの逮捕は歴史上類を見ない出来事でした。

まず最初に指摘しておきたいのは、四福音書すべてがこのクライマックスの日の出来事を記録しているということです。イエスの生涯において、四福音書すべてに記されている出来事は他に一つだけです。それは五千人の食事です。DJN ( ユダヤ人のための福音書 ) を注意深く読む人なら、イエスの生涯の多くの部分が四福音書のうちの1つにしか記録されていないことに気づくでしょう。二つの福音書に記されている出来事は比較的少なく、三つの福音書に記されている出来事も同様です。五千人の食事以外では、「聖金曜日」に起こった出来事、つまりイエスの裁判と死だけが、四福音書すべてで余すところなく記録されています。これは、イエスの死がいかに重要であったかを示しています。

福音書記者たちは、この場面においてイエスの偉大さと恵み、そして対照的にイスカリオテのユダの裏切りの邪悪さ、そしてイエスを捕らえた者たちの疎外された役割を強調しました。イエスは、逮捕の際でさえ、すべてを統制し、指示していました。イエスの死に関する物語全体が、イエスが語ったことを如実に物語っています。

「父はわたしを愛しておられます。わたしが命を捨てて、再びそれを得るからです。だれもわたしの命を奪い取ることはできません。わたしが自ら進んで命を捨てるのです。わたしには命を捨てる力があり、またそれを得る力もあります。わたしは父からこの指示を受けました。」  
( ヨハネ10:17-18 )

ヨハネは、ユダの指揮の下、兵士たちの「分遣隊」がゲッセマネに来たと記しています。戦闘に赴いた「分遣隊」の公式な人数は600人でしたが、イエスの逮捕には全軍が必要だったわけではないでしょう。神殿の衛兵、祭司、パリサイ人、そして民の長老たちも加わり、数百人からなる「大群衆」を形成していたからです。たいまつ、ランタン、剣、棍棒、ナイフといった武器を手にした彼らは、イエスの部隊の約20人に対して圧倒的な力を持っていました。しかし、イエスはそれらのどれにも怯むことはありませんでした。むしろその逆でした！

ヨハネは、イエスが（二度）重要な質問をすることで主導権を握ったことを記しています。「あなたは誰（あるいは何）を求めているのですか？」これは、イエスが最初に二人の弟子にご自身を信じるように求めたのと同じ質問でした（ヨハネ1:38）。この場合、この質問は最終的に地上のすべての人々に及ぶことになる弟子作りの運動へと繋がりました。

園でのこの問いは、イエスの死という、全世界の罪を消し去る出来事へと繋がっていました。どちらの場合も、イエスの問いに答えた人々は、最初に彼の問いを聞いたときには想像もできなかつたほど多くのものを受け取りました。

迫害者たちがナザレのイエスを捜していると言った時、イエスが二度「わたしはある」と答えたという事実は、彼らが即座に身を引いて地面にひれ伏し、防御態勢を取った理由をおそらく説明しているでしょう。「わたしはある」ヤハウエという偉大な存在を全く恐れることなく主張し、イエスが弟子たちを解放するように命じた様子は、群衆がこれまで見たことのないほどの落ち着きと力強さを示しました。イエスは自らの逮捕を自ら指揮していたのです。

イエスは常に、自分の言ったことが必ず実現することを強く望んでいました。ヨハネは、イエスが祈りの中で以前に述べた言葉（ヨハネ17:13）を引用し、父なる神から託された弟子たちを、詩篇で裏切り者として預言されている者（69:25; 109:8）を除いて、一人も失うことではないと述べています。ヨハネは、イエスの言葉が、彼自身や他の福音書記者が旧約聖書の成就を述べたのと同じように成就したと述べています。言い換えれば、ヨハネはイエスの言葉が神の言葉であると信じていました。これは、ヨハネ1:1-3で彼がイエスに与えた本来の呼び名です。

イエスは「自分に起こるであろうすべてのこと」を知っていました（ヨハネ18:4）。このため、イエスは苦しみの一瞬一瞬を、犠牲者としてではなく、勝利者、克服者として歩むことができました。

父なる神には他に選択肢も、代替案もありませんでした。イエスは世の罪を償うために死ななければなりませんでした。それはイエス自身のためでもなく、人間の力や計画によるものでもありません。すべては神の計画であり、イエスはそれを成就させるために自らの権威行使しました。これはまさに、他に類を見ない逮捕でした。

#### 応用：

イエスのように、私たちの確信と力は神の御心にあります。神の御心を行なっていると自覚するなら、私たちは胸を張り、宇宙の王の息子、娘として神から与えられた権威をもって歩むことができます。

神の御心を行う中で苦しむとき、私たちは決して犠牲者ではありません。私たちはイエスの共同相続人であり、イエスに従うために代価を支払うという特権を与えられています。

**信仰や従順が短期的に苦痛を伴う時、あなたはどのような態度をとりますか？自分を被害者だと考えていますか？**

もしそうなら、この場面におけるあなたの主の栄光ある模範について瞑想し、主のために苦しむという祝福を心から誇れるまで瞑想してください。

イエスに忠実に従う犠牲者はいない。あるのは、イエスの勝利にあずかる者だけだ。イエスはこう言わされた。 「わたしはあなたに命じる。勇気を持ち続けなさい。わたしは永遠に世に打ち勝ったのだ！」（ヨハネ16:33）